

日本英学史学会 中国・四国支部

平成 26 年度 総会・第 1 回 (通算 70 回) 研究例会のご案内

拝啓 新緑の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当支部の発展のために温かいご支援とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、平成 26 年度支部総会、及び第 1 回 (通算第 70 回) 支部研究例会を下記の要領で開催いたします。今回の研究例会では、若手・中堅会員によるシンポジウムが予定されています。お誘いあわせの上ご参集くださいますよう、ご案内申し上げます。末筆ながら、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

敬具

日本英学史学会 中国・四国支部

日 時： 2014 年 5 月 24 日 (土) 13:00 受付開始
会 場： サテライトキャンパスひろしま (広島県民文化センター) 604 中講義室 (6 階) 〒730-0051 広島県広島市中区大手町 1-5-3 TEL 082-258-3131
参加費： 会員、非会員とも無料

支部総会 (13:30~13:50)

議長選出、前年度活動報告、会計報告、会計監査報告、新年度活動計画、他

開会行事 (14:00~14:10) 支部長挨拶 田村 道美 (香川大学名誉教授)

シンポジウム (14:10~16:45)

「英学史研究とこれからの英語教育」

趣旨説明 (14:10~14:20) コーディネータ 馬本 勉

問題提起 (14:20~14:35)
「中学校・高等学校の教育現場から」 鉄森 令子 (広島県立祇園北高等学校)

提案 1 (14:35~15:00)
「教師と生徒が触れる英文を考える」 能登原 祥之 (同志社大学)

提案 2 (15:00~15:25)
「教室での実践史にヒントを求める」 隈 慶秀 (福岡県立明善高等学校)

提案 3 (15:25~15:50)
「訳読史とアクティブ・ラーニング」 馬本 勉 (県立広島大学)

< 休憩 >

指定討論 (16:00~16:15)
「教員養成の側から歴史研究をみる」 保坂 芳男 (拓殖大学)

全体討議 (16:15~16:45)

閉会行事 (16:50~17:00) 副支部長挨拶 上杉 進 (元 高水高等学校)

懇親会 (17:30~19:30) 広島市内中心部の会場にて 会費 4,000 円程度

【シンポジウムの概要】

70回の節目を迎えた今回の研究例会では、「英学史研究とこれからの英語教育」と題するシンポジウムを催し、これまでの研究を現代の英語教育に活かす糸口を探っていきます。

まず、急ピッチで進む英語教育改革の中で、今、教育現場に何が求められ、何が課題となっているのでしょうか。英語の授業には、その形態や指導方法、教科書の扱いや評価法など、学習者と向き合う教師が取り組むべき多数の課題があります。英学史研究はそれらの課題に解決策を与えてくれるのでしょうか。そうした「問い」を問題提起の形で投げかけます。

次に3名のパネリストから、問題提起を受けた提案を行います。辞書の用例、授業実践、訳読などの歴史をひもときながら、現代に活かす方策を考えていきます。英学史研究が守備範囲としてきたことがらの中に、どのようなヒントを見出すことができるでしょうか。各パネリストの研究テーマの中から検討材料を示し、提言をまとめていきます。

パネリストによる提案の後、指定討論者による総括を行います。その上で、例会参加者全員で質疑応答や意見交換を行い、議論を深めていきます。皆様の積極的なご発言をお願いいたします。

会場案内 (サテライトキャンパスひろしまホームページより)



サテライトキャンパスひろしま (広島県民文化センター5・6階)

※エディオン本館から南へ約100m

〒730-0051 広島市中区大手町1丁目5-3
TEL : 082-258-3131 FAX : 082-258-3010